

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792300036		
法人名	桂商事株式会社		
事業所名	グループホーム文の里 (2階)		
所在地	大阪市阿倍野区文の里4-23-21		
自己評価作成日	平成25年7月10日	評価結果市町村受理日	平成25年10月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kan=true&JigyosyoCd=2792300036-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成25年8月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様個々のニーズにあわせたケアをモットーにしています。
 生活の質を高めるために、外出に力をいれています。
 老化したから「できなくなった」とあきらめない、「まだまだ現役だ」と、「できるはずだから」という視点でのケアをすすめています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立時からの基本理念を基に、ホームが独自で目指しているケアを自分たちの言葉に置き換えた理念を作り、ホームがその方にとって笑顔で過ごせる居心地の良い場所となるように、また、個別対応を徹底する事で気付きを増やしてケアに活かしていけるよう取り組まれています。ホームでは外出の頻度が大変多く、ハッピーデイと称した個別外出の日には、行きたい場所や思い出の場所等公共交通機関を使用して出かけています。また、和歌山への一泊旅行も実現でき、利用者の笑顔が増えると共に、職員間でもケアの充実に関心を持ってホームでの思い出作りに関わっています。提携医が毎月医療についてわかりやすい文書で機関誌を発行してくれたり、訪問歯科が嚥下テストを施行し、診断した上で食事形態のアドバイスをくれる等、医療機関との連携も密に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	第二の理念を掲げて、スタッフ全員が理念を共有し実践しています。(楽しく、笑ってほっとして、思い出いっぱい作ろうね	設立時からの基本理念を基に、更にホームの目指しているケアを自分たちの言葉に置き換えて理念を作っています。ホームがその方にとって笑顔で過ごせる場所となるように、また、個別対応で気付きを増やしてケアに活かしていけるように取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお店を利用することでなじみの関係づくりを行っています。	月1回ホームで喫茶を開き、地域の方々にも立ち寄ってもらい、地域の情報を得たり、介護についての発信を行っています。町会に加入し、地域の餅つき等の行事にも参加しています。外出の際には地域の方と挨拶を交わしたり、近隣のお店で食事や買い物をしています。保育園児との交流も図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域でグループホーム文の里という施設があることが認知されていて、認知症の人を抱える家族の相談をうけています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回、会議をひらき、意見をサービスに活かしています。	家族、地域の福祉委員、地域包括支援センター職員の参加を得て、2ヶ月に一度開催しています。行事や入居者の様子等の報告を行い、参加者からは様々な意見やアドバイスをもらっています。ホーム発行の広報紙について意見があり改善に繋がっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	専門の担当者が日頃から市町村との連絡を密にとっています。	法人には行政担当者が配置されており、制度上の疑問点や相談等一括してとりまとめています。ホームには法人より情報が伝わる仕組みになっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する、資料を皆で学習しています。また、日々の業務の中でも自分達の行っている事が、身体拘束になっていないかを確認し合っています。	身体拘束についての研修を受講しています。日々のケアの中で気付きや不適切な対応が見られた時には、その場で拘束に繋がらないかを確認し合い、理解を深めています。今後はエレベーターや玄関を開放できるように取り組む予定です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する講演に参加したり勉強会を開いています。		

グループホーム文の里(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人のいらっしゃる入居者とは連絡を密にとり、生活の質を高めるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問に思われるご家族とは個別に対応し、理解していただくよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に何回か家族会を設け、意見交換をし、ケアに反映させています。	家族の訪問時に直接意見や要望を聞き、直ぐに対応できるように努めており、疑問点等にも丁寧に答えています。必要に応じて法人に相談し対応を検討して応える等、出された意見はサービスに反映するようにしています。年に2回は家族会を開催し、その場でも意見や要望を聞いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議、全体会議を開き、意見を吸い上げ、ケアに反映させています。	月に1回全体会議と各ユニット会議を開催し、必ず職員個々が一題、議題を出すシステムを作っており、ケアや業務に関して様々な気付きや意見を出し合いながら改善に繋げています。毎月家族に送る手紙の内容についての意見があり改善に至った経緯もあります。又、管理者は職員の様子等から個別面談の場を設け直接意見等を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務自己評定や管理者との日頃からのコミュニケーションを通じて職員の意見や要望をうけとめるよう努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の勉強会に職員が積極的に参加出来るよう、学習内容も検討して決めている。また、職員が外部の研修で学んできた事を勉強会で他の職員に伝える事でスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームネットワークに参加し、勉強会を通じて関係づくりをすすめています。		

グループホーム文の里(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接をおこない、ご本人の生活歴等の情報収集に努め、不安や要望にできるかぎりこたえるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接をおこない、ご家族の困り事や不安や要望にできるかぎりこたえるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を前提に考えるのではなく、その方に必要なサービスを提案させていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	つねに家庭的な雰囲気の中でスタッフは「自分の家族だったら」という考えでケアをおこなっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族とコミュニケーションをとり、ご家族をまじえて外出したり、記念日をともにされたりして家族のきずなを大切にしたいケアを考えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人・生徒様が定期的に来苑。行きつけのお店に散歩がてら顔が出せる様になっています。	ホームには友人やバイオリン演奏を披露しに以前の教え子等の訪問があります。馴染みの喫茶店や寿司屋、美容院等に職員と一緒に出かけしています。趣味の継続として社交ダンスに通ったりハーモニカや詩吟の練習等の支援を行っています。ホームでは特に個別外出の機会を多く作り、行きたい場所や思い出の場所を聞いて実現できるよう取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	大きな家族としてとらえ、喜怒哀楽をまじえた生活を支援しています。		

グループホーム文の里(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護サービス等についての相談、助言を必要に応じて、提供できるよう努めている。また行事にも参加して下さいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中でご本人の希望を聞き逃さずその人らしい生活をおくっていただけるよう支援しています。	入居時に家族から得た情報と、日々の会話の中から把握した希望等を合わせて記録に残しています。言葉で意向を表せない方には表情や様子を観察したり、生活歴にある暮らし方等の情報、職員の気付き等も加味して検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会にこられたご家族にお聞きしたり、好みや若かった頃のことなどお話していただく中で、ご本人が暮らして来られた生活環境等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録に日々の状況を記載し、スタッフ間で検討し、ケアにいかしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にサービス内容の見直しするため、関係者を交えて話し合いをおもち、介護計画を作成しています。	アセスメントや日常の様子に利用者・家族の意向を加味して介護計画を立てています。定期的に評価やモニタリングを行い、日常のケアが計画にそっているかを確認しています。通常は6ヶ月に1回カンファレンスを開いて、職員間で必要なケアを継続や変更の必要な事柄等を話し合い、見直しに繋げています。必要時には医師の意見も反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録には特記事項にマーカーをひいたり、見出しをつけることでケアに活用できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の思いを即、実行し、外出したり、美容院にいったりしています。		

グループホーム文の里(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でも行事に積極的に参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医のドクターと密に連絡をとりあい、必要であれば専門医への受診などの支援もいただいています。	入居時に主治医の継続が可能な事を伝え選んでもらっています。提携医による月2回の往診がありますが、状態が落ちついている場合は月1回の往診で対応しています。以前からの主治医に通院する場合は家族対応で受診し、結果の報告を受けています。また、歯科医の往診もあり、嚥下状態が悪化した利用者に対して嚥下テストを行い、食事形態のアドバイスをもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護があり、異常や健康チェックを伝え、ドクターに報告し、指示をあおいでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、医療関係者と連携を図り、情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診医とご家族との面談やスタッフとご家族との面談でターミナルにむけて連携調整をおこない、ご家族が納得できるターミナルケアに取り組んでいます。	入居時に家族へ重度化についてのホームで出来る事等を話しており、時期が来れば再度、家族や医師と話し合いを重ねながら方針決め共有し対応しています。今までに看取りを経験し、チームで取り組んで得た知識等は、今後のケアに活かしていきたいと考えています。看取りについての研修も受講しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会にて救急時の対応を学んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署との訓練や火災などの避難時の対応など話し合っています。	年2回、消防署の協力の下避難訓練を行い、初期消火の方法や通報訓練、避難経路の確認をしています。ホーム独自でも2ヶ月に1度の運営推進会議の前に避難訓練を実施しており、繰り返し、災害についての意識付けをしています。運営推進会議でも議題に上げて話をしています。	

グループホーム文の里(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重しながら他人行儀になるのではなく、親しみをもてる言葉かけに努めています。	利用者は人生の大先輩である事、その人の立場に立って考える事等を意識しながら接しています。利用者を尊重できるような言葉かけに配慮していますが、不適切な場面が見られればその場で注意し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御自分の思いを表現しやすい環境づくりにつとめています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	たとえば、入浴の困難な方には無理強いせず、入浴日以外でも対応したりしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室へ定期的にお連れしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理に参加していただいたり、できることをしてもらっています。	業者がメニューを立てて食材が配達されていますが、足りない物は一緒に買い物へ行っています。できる方にごしらえから調理、配膳まで携わってもらっています。おやつを手作りしたり、外食、弁当を持って外出する等、食の楽しみも支援しています。職員も同じ食卓を囲み同じ物を食べています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分などはゼリーやジュースなどいろいろ工夫して提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施しています。 必要に応じて、歯科受診をして頂いています。		

グループホーム文の里(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易にリハビリパンツを使用せず、日中は布のパンツで尿意を感じてもらおう努力しています。また排泄の言葉を表現出来ない方は合図を見逃がさず、さりげなく声かけをしています。	トイレでの排泄を基本として、定期的にトイレ誘導し、日中は布パンツに移行出来て活動的になられた方や尿意サインを見逃さず誘導して失敗が減った方等がいます。また、排泄状況に合わせてパッド形態も都度変更しています。居室にトイレが完備されている為、プライバシーの配慮がなされ、自己のペースでトイレへ行かれる方や夜間のトイレに安全に移動できています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヤクルトを頼んだり、運動などを積極的におこなっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日以外でも希望に応じて対応しています。	週に3回、午前と夕方まで希望の時間に入浴してもらっています。重度の利用者にも対応できるように機械浴やキャリー付きのシャワーチェアも備えています。好みのシャンプーや石けんを持って来られたり、季節にはゆず湯や菖蒲湯等も取り入れ楽しみながら入ってもらえるように支援しています。拒否のある方には声かけやタイミングを工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	つかれた時や夜間睡眠が少ない時は居室で休んでいただくようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局に居宅療養管理指導にはいっていただき、薬についての知識をを指導していただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喫茶店にでかけたり、ビールが好きな方は飲んでいただいたりしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	積極的に外出企画を計画、個別の希望にあわせたプランにしています。	日常では散歩や買い物で出かけ、外出の希望があれば速やかに対応し、外出の頻度も多く利用者は活動的に過ごされています。ハッピーデイと称した個別外出の日を設けており、行きたい場所や思い出の場所等公共交通機関を使用して出かけています。また、行事での遠出の際は家族の参加も多くあり、一泊旅行も実現できています。	

グループホーム文の里(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物のさいにレジにて支払いをしていた だいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自宅に電話されたり、お手紙をだされたり しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の装飾に季節感をもりこみ、行事の写真などつねに掲示しています。	リビングとダイニング、職員スペースが一体となった造りで、人の気配や食事の匂い等の生活感を感じられる環境となっています。共有空間は和やかな音楽が流れており、季節毎の飾り付けを施し、外出の際の写真が多く飾られています。毎日利用者と掃除を行い、清潔に保てるように配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座りやすいソファをもうけ、入居者様どうし で語らうことのできる場所になっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやベッドなど使い慣れたものをもちこ んでいただいています。	各居室にはトイレと洗面台が完備されており、毎日利用者と掃除をし清潔保持に努めています。利用者の大切にしている家具類や趣味の本や写真等を持ち込まれ、安心して過ごせる居室となっています。また、自宅での生活スタイルや状態に合わせて布団を敷いて休むこともできます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーやてすりなど、環境に配慮して います。		